

今月の気象衛星画像 (2005年8月)

図1 8月6日13時の赤外画像

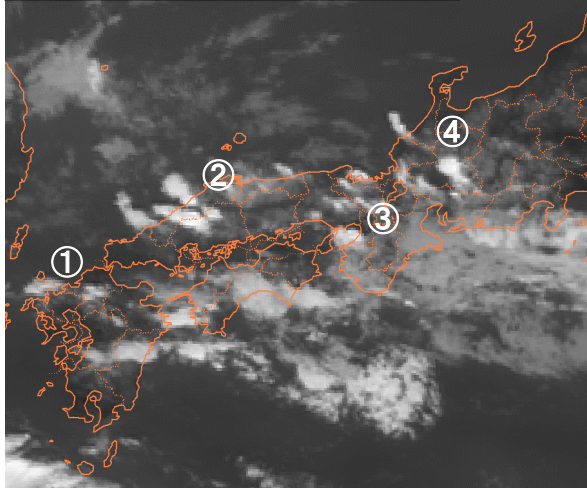


図2 8月6日13時30分の赤外画像

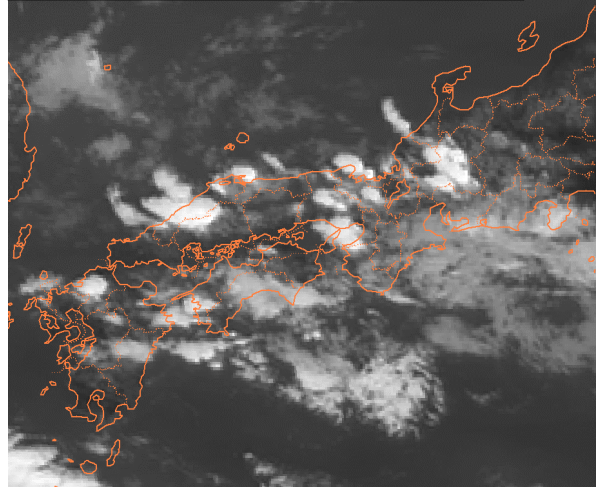


図3 8月6日14時の赤外画像

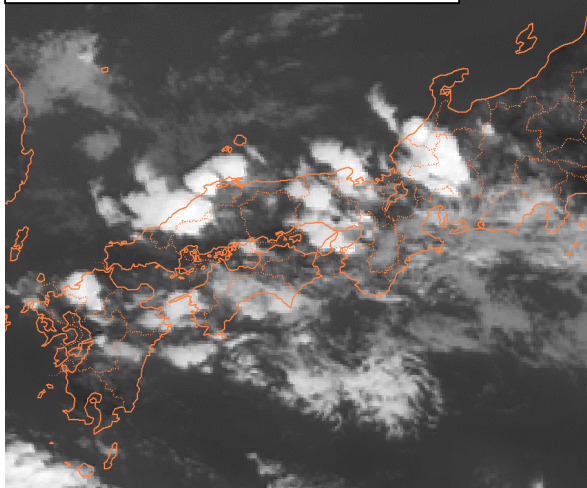
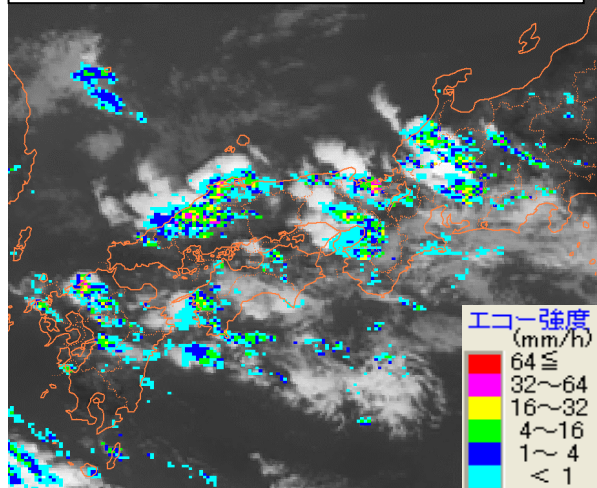


図4 8月6日14時のレーダー-エコー重ね図



ひまわり6号の30分観測画像からみた積乱雲の発達

8月6日の午後、上層の寒冷低気圧の影響により、西日本を中心に積乱雲が発達した。図1～3は、6日13時から14時までの30分間隔の赤外画像である。西日本の内陸部を中心に発生した積乱雲(図の白く輝いている部分)が時間と共に拡大していく様子がわかる。ひまわり6号は北半球の観測が従来の1時間間隔から30分間隔に短くなり、短時間に強雨をもたらす積乱雲の発達がより詳細に把握できるようになった。13時の画像では、①福岡県、②島根県、③京都府から兵庫県、④岐阜県にドット状の積乱雲が発生し始めている。ひまわり6号から入手できるようになった30分後の画像(13時30分の画像)をみると、①～④の地方では積乱雲の領域が拡大している。30分間隔の画像により防災上重要な積乱雲の発達を早めに知ることができるようになった。14時には積乱雲が更に発達し、図4に示したレーダーエコー図からは①～④の地方で1時間に30mm以上の激しい雨が観測されている。

(気象衛星センター)